



かどや通信

第8号

発行日：平成27年5月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

おかげ様で

入館者一万人突破！

て贈呈された。

金本さんは、かどやに入
ったとたんに「おめでとう
ございます」と言われて驚
いたそうだが、建築関係の
仕事をしており、古い建物
への関心が高く、「古民家

がきちんと保存されているの
を見て、改めて日本家屋の良さを
感じました」と、にこやかに話
してくれた。

かどやの入館者は初年度(平成
二十五年五月～翌二十六年三月)
は四千三百二十六人、昨年度(二
十六年四月～二十七年三月)は五
千七百七十二人。新年度を迎えた
四月には一万人達成まで五百二
人となり、カウントダウンを始
めていたが、達成は五月下旬か
ら六月上旬を予想していた。

ところが、鳥羽なかまち会*
の発足に伴い、かどや界隈にマ
スコミからの注目が集まり、四
月四日には名古屋テレビ「ウ
ドちゃんの旅してゴメン」が、四
月二十七日には三重テレビ「え
えじゃないか」でかどやも紹介
された。さらに、四月二十九日

には第二回なかまちマーケット
が開催され、かどやも押花や機
織り体験コーナー等を設けたと
ころ、予想をはるかに超えるお
客様にお越しいただき、五月二
日に一万人突破の快挙となった
のだ。

かどや保存会の清水会長は
「こんなに早く入館者一万人を
達成できるとは思いませんでし
たが、一人でも多くの方にかど
やを知っていただき、かつ楽し
い時間を過ごしていただきた
いと、様々な企画を実施していま
す。三年目も皆さんに親しまれ
る施設となるよう頑張ります」と
と抱負を語ってくれた。

*鳥羽なかまち会

かどや保存会
の理事でもある坂田さや香さんと
遠藤美和さんが、かどやが一般公
開されたのを機に、かつては鳥羽の
台所と言われていた三丁目(中之
郷)から四丁目(赤崎)に当時の賑
わいを取り戻そうと、この地区の商
店はもとより、西念寺さんにまで声
をかけ、一年半にわたつねばり強
く説得して結成された組織である。



ナルT
シヤツ
や絵葉
書など
かどや
ゆかり
のグッズ
が七点
が記念
品とし

鳥羽大庄屋かどやは、五月一
日で開館三年目に突入したが、
翌二日には入館者一万人を突破
した。
記念すべき一万人目のお客様
は、奈良県生駒市から来られた
金本さん親子。坂手島行きの船
の待ち時間を利用して町歩きを
していて、たまたま古い建物を
見かけて立ち寄ったとのこと。
金本さんには、かどや保存会の
清水会長から、かどやのオリジ
ナルT

ゴールデンウィークスペシャル

二十九日 なかまちマーケット

第二回なかまちマーケットが四月二十九日に開催され、鳥羽市民だけでなく、伊勢市や志摩市等からも大勢の人たちがなかまちに集い、買い物や散策を楽しんだ。鳥羽なかまち会の加盟店舗がそれぞれの特長を活かした商品を販売し、主会場のプリンクMではベージュやかわいい小物等の販売もあり、かつては鳥羽の台所と呼ばれ賑わっていた中之郷から赤崎界限に、この日活気がよみがえった。

かどやも多彩な企画で大賑い

そこでかどやも、なかまちは散策する方々に楽しんでいただくような企画を準備した。

江戸時代の鳥羽発見

明治元年に描かれた鳥羽の風景屏風を展示した。鳥羽の篤志家から昨年鳥羽市に寄贈されたもので、鳥羽城が描かれている貴重な作品だ。日和山から明日

の日和を話し合う人の姿や、港町として栄えた中之郷界限等も鮮明に描かれており、見学者の興味をそそった。

押花体験コーナー

以前、押花アート展で見事な作品を披露していただいた石井千恵子さんの指導で、しおりやコースター作りに挑戦。親子連れに大人気だった。



展示販売コーナー「手芸が大好きなサヨちゃんの手作りコレクション」

（革のバッグやポーチ、髪飾り等）が四月一日から展示販売



されいたが、この日は幸せちゃん自ら作品の説明や販売を行い、義姉のユミちゃんもバッグワークのバッグやかわいい小物等

を出展した。

さらに、サヨちゃんの知人でいつきのみや歴史体験館で機織りのデモンストレーションを行っているお二人の手織りのバッグや巾着袋等も展示され、機織り機を使ったコースター作りの体験も行われた。また、草木染めや薬草染めによるさわやかなストールも展示され、かどやに薫風が吹きに抜けたようだった。

皆で歌おう！中庭フェスタ

歌好きには、かどやで休憩しながら思いつき歌っていたかどうかと、鳥羽の弾き語り有名人のラブちゃんとかどやゼンザーズが六〇年代のフォークソングをかきならした。

二日連続「屋下がりコンサート」

五月三日 きよ風は琴の調べに乗つくと題して、鳥羽で四十年以上練習を積んでいる生田流宮城会ことみ会の皆さんによる演奏が行われた。ことみ会の皆さんは毎年十一月三日の市民文化祭に出演しているが、今回は演奏



者との距離が非常に近く、迫力ある熱演に惜しみない拍手が贈られた。

五月四日 風琴の音に誘われてと題して桑名在住の花井淑さんの演奏による長尾オルガン・コンサートが開かれた。花井さんは、かもめホールや鳥羽小学校



で行われたコンサートでも演奏を披露してくれただが、今回も、唱歌からクラシックまで、幅広いパートリイで楽しませてもらった。

五月五日 野点

五月晴れの空の下、簡単茶道教室でお馴染みの千草宗石先生による野点が行われた。

おいしい交流

かどや調理倶楽部



かどや調理倶楽部では、和菓子作りは八十五歳のきよばあちゃんから、洋菓子は名

古屋在住のミホちゃんから伝授していただいております。毎回大好評です。さらに、A.L.T(外国語指導助手)でフィリピン出身のジョンちゃんと米国からのドラちゃんのお国自慢料理も加わり、国際色豊かな料理教室となっております。

フィリピンとアラブ料理に舌鼓

お国自慢料理教室は、昨年十一月と今年二月に行われた。一回目はジョンちゃんがフィリピンの家庭料理メヌードと芋のキッパを、ドラちゃんはおばあちゃんがよく作ってくれたアラブ風インゲンサラダを教えてくださいました。二回目のメニューは、フィリピン風えびシチューと、

シリア風ライスピラフ、レバノン風グリーンピーンスだった。

どの料理も参加者には、なじみのないものばかりで興味津々。調味料もシニガンスープの素や魚醤など馴染みのないものが多く、かどやの台所には異国の香りが充満した。

ドラちゃんは大好物の豆サラダを紹介してくれたが、サラダに使うインゲンは生で食べるそう、ゆでてから使う日本人にとってはバリバリと生インゲンをおいしそうにかじるドラちゃんに驚いていた。



さらに、料理だけでなく、お客様のおもてなしの仕方など生活文化の違いも紹介してくれて、フチ異文化交流に参加者は大満足。もちろん、初めての食べる異国の家庭料理に舌鼓を打ったこととは言うまでもない。

バナナマフィンを作ろう 未来のパティシエが仕切る

三月には洋菓子が得意なミホちゃんによるバナナマフィン作りが行われた。



洋菓子教室は、親子でも参加していただくことと開催を日曜日に変更したところ、お菓子作りが大好きというはるちゃんがお母さんと一緒に参加。

ミホちゃんの指導の下、小さいながらも手際が良く、未来のパティシエを予感させるかのようにその場を仕切っていた。

よもぎを摘んでだんご作り

四月には、きよばあちゃんからよもぎ餅の作り方を教えてもらった。きよばあちゃんは前日までに近所の野原でよもぎを摘んで準備万端で臨んでくれた。もち米のふかし時間の調整が難しかったが、搗きたての餅のうまさには笑顔がこぼれた。今回は坂手や伊勢から参加した

人もおり、試食タイムにはよもぎ摘みの頃の在所の風習が話題にあり、ここでもフチ異文化交流で話が盛り上がった。

おいしい野菜を作ろう!



鳥羽市は、赤崎の近鉄沿線の空き地を有効利用してもらおうと赤崎アグリパークと名付けて、地元の旧鳥羽町の住民に利用を呼び掛け、現在十四団体が利用している。しかし、土は粘土質で、しかも利用者には農作業の初心者も多い。

そこで、かどや塾では、JA鳥羽島の営農指導課長・野村将司さんをお招きし、野菜作りの基礎講座を行っている。一回目となる昨年七月には、おいしい野菜には欠かせない土作り、十月には冬春野菜の作り方、今年三月には夏野菜の栽培管理についての講演が行われた。毎回、初心者にも分かりやすく実践的な説明が好評で、赤崎アグリパークの利用者以外でも家庭菜園に挑戦中の方も参加している。今後、時期は未定だが、現地でのフィールドワークも含めて継続していく予定だ。

祝茶に五十五人

千草宗石先生に感謝状

かどやの簡単茶道教室で、茶道の普及に尽力されている千草宗石先生が、五月十七日にかどやで「祝茶」を行い、茶道関係者等五十五名が来館された。

宗石さんは長年、鳥羽市文化協会委員として市民の文化意識高揚に貢献するとともに、鳥羽高校や鳥羽商船学校等での茶道指導等を通じて、青少年の人格形成にも大きく寄与していることから、昨年は鳥羽市から表彰状が贈られ、今年は裏千家からも感謝情が贈られた。



そこで宗石さんは「このような活動を続けてこられたのは、支援してくださる方々のおかげです」と、感謝を込めて祝茶を企画した。当日は、茶道指導をしている鳥羽高校と商船学校の生徒さんもお手伝いに駆けつけた。

かどやでも宗石さんのご厚意により簡単茶道教室を実施している。あなたも参加してみませんか。

おじさまは歴史が大好き

藩札めぐりかどや塾

第十六回かどや塾では、全国各地の古紙幣の研究を行っている皇學館大学研究開発推進センター・助教当時の千枝大志さんをお招きし「羽書と藩札」廣野家伝来の古紙幣をめぐって」と題した講演が行われ、男性二十二名を含む歴史好き四十五名が熱心に耳を傾けた。同塾にこれほど多くの男性が参加したのは初めてで、かどやスタッフを驚かせた。

さて、江戸時代にも、金貨や銀貨などのコインの他に、藩が独自に発行した藩札や、豪商等が発行した羽書といわれる地域限定の紙札等が流通していたそう。藩札は現在の地域振興券のようなもので、羽書は商品券や電子マネーの役割を果たしていた。

千枝さんが撮影した多数の古紙幣を紹介しながら、紙幣の役割や時代背景等について分かりやすく解説。かどやでも一部展示されている廣野家伝来の古紙幣も紹介された、参加者は飽きることなく古紙幣への知識をふくらませた。



千枝さんが撮影した多数の古紙幣を紹介しながら、紙幣の役割や時代背景等について分かりやすく解説。かどやでも一部展示されている廣野家伝来の古紙幣も紹介された、参加者は飽きることなく古紙幣への知識をふくらませた。

◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成27年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化的財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。お陰さまで26年度には、278名の方々に会員登録いただきました。今年度も5月 日現在で、すでに1××名の方が登録していただきましたが、さらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H27/4/1～H28/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713